

子どもの本だな 26

このページは子どもたちにすすめたい本をとりあげています。本を選ぶときの参考にしてください。

### げんきなマドレーヌ

ルドウィッヒ・ベームルマンズ 作・画

瀬田 貞二 やく (福音館書店)

パリの、つたのからんだ古い屋敷に、12人の女の子が先生のミス・クラベルといっしょに暮していました。そのなかで一番おちびさんのマドレーヌは、スキーもスケートも得意。ねずみも怖くないし、動物園のとらにもへいっちゃら。

ある晩、マドレーヌがわーわー泣いていました。医者が呼ばれ、盲腸炎のマドレーヌは救急車で病院へ運ばれました。10日後に、11人の女の子がお見舞いにきて、「わあ！すごい！」。病室には、おもちゃにキャンディーに人形の家。なかでも、みんながたまげたのは、マドレーヌのお腹にある手術の傷でした。

屋敷に帰った11人の女の子が、盲腸を切ってほしいと泣くという結末まで、リズムのある文章と、黄色地に描かれた動きのある絵でテンポよく展開します。読んでもらえば四歳から楽しめます。(竹内)

### 大どろぼうホッツェンプロッツ

オトフリート・プロイスラー 作

中村 浩三 訳 (偕成社)

カスパールとゼッペルは、大どろぼうホッツェンプロッツに盗まれたおばあさんのコーヒーひきを、取り戻すことにしました。二人はホッツェンプロッツの隠れ家を突き止めようとしますが、逆に捕まってしまう、カスパールは魔法使いに売られ、ゼッペルはどろぼうの家で働かされることになりました。

ある日、カスパールは魔法使いの館の地下で、スズガエルの姿に変えられ泣いている妖精に会いました。妖精草がないと元の姿に戻れないと聞いたカスパールは、妖精に館を抜け出す方法を教わり、魔法使いが出かけた隙に館を抜け出しました…。

少年たちと悪党たちのかけあいと、スピード感のある展開にハラハラしながら一気に読み終えます。ホッツェンプロッツが捕まり、戻ってきたコーヒーひきに大喜びのおばあさんと誇らしげな二人の姿に大満足です。(池之上)

12月	1月	12・1月の移動図書館(いずれも木曜日です)				
10日	7日	塚森 地域内 10:30~10:50	沖代 地域内 11:00~11:20	福地(三反長) 地域内 14:30~14:50	米田 公会堂 15:00~15:20	竹広南 公民館 15:30~15:50
17日	14日	岩見構下 公民館 10:30~10:50	岩見構上 公会堂 11:00~11:20	原池団地 公民館 15:00~15:20	山田 掲示板前 15:30~15:50	原 太田東地区農村 交流センター 16:00~16:30
24日	21日	広坂 公民館 10:30~10:50	上太田 公民館 11:00~11:20		吉福 公民館 15:30~15:50	太子 ニュータウン 公民館 16:00~16:30

### お知らせ

毎週土曜日に

「おはなしの時間」

を開いています

4歳~2年生 11:00から

3年生~中3 11:30から

12月のおはなしは、

「かさじぞう」「さるとかに」

「ふしぎなお客」などを予定

しています。

詳しくはプログラムをご覧ください。

# 『ロマネスク美術革命』

金沢 百枝著

新潮社 270頁 2015年8月刊 1,400円 (請求記号) 702

ロマネスクとは、十世紀末から十二世紀の西ヨーロッパの建築様式をいう。尖った先端をもつ垂直性の強いゴシック建築とは対照的に、大地に根差したような安定した形態で、古代ローマ建築を思わせる半円形のアーチが並ぶ。著者はロマネスク美術の研究者。寒村の教会の柱頭にみつけた「かわいい」イヌとウサギの彫刻をはじめ、素朴で不思議なロマネスク美術の魅力と謎を解き明かす。

民族移動が一段落し、社会が安定してきた当時のヨーロッパは、鉄製の農具の生産と農法の発展により食料が増産されて人口が増加し始めた。新しい村が生まれ、聖堂が次々に建築された。それまでの教会建築は、古代ローマ様式を踏襲し、古代の建築物から柱や柱頭、台座を持ち寄り再利用していたが、聖堂の数が増え石材や古代彫刻に通じた石工が不足するようになると、近場で採れる石で間に合わせるしかなくなった。古代ローマ的な伝統や規範は薄れ、むしろその構造から自由に逸脱し始めた。くると巻いた渦巻きや葉っぱが彫刻されていた柱頭に、生き物や物語がみられるようになった。聖人や動物が躍り出て様々な物語をくり広げ始めたのだ。

ロマネスク彫刻の構図には「枠組みの法則」があるという。教会の扉上部の半円アーチで囲まれた部分や柱頭の台形などの「枠組」の制約を受け、ロマネスクの特徴である「歪み」が生まれた。枠の制約の中で身体はねじれ、よじれ、歪む。柱に彫られた預言者エレミヤは長く引き伸ばされた動物や怪物はコロコロと丸くなる。枠に従っているように見えて、それを逆手に表現の自由を謳歌していると著者は言う。枠との微妙な緊張関係の中に成り立つ動的エネルギーこそロマネスク美術の神髄だそう。

聖書を知らないものには難しいところもあるが、図版に目を凝らし、ロマネスク建築の解説書や教会巡りのガイドを片手に読み進むうち、ロマネスク美術の魅力にとらわれてゆく。「ロマネスクを見ることは美への多様性へと眼を開くことでもある」という著者の言葉に納得させられる。

(片木)

## 12月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
		×	2	3	4	5
6	×	×	9	10	11	12
13	14	×	16	17	18	19
20	×	×	23	24	25	26
27	28	×	×	×		

## 1月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
					×	×
×	×	×	6	7	8	9
10	11	×	13	14	15	16
17	×	×	20	21	22	23
24	25	×	27	28	29	30
31						

<日曜日の絵本の時間>

12月20日

時間：11時から

場所：おはなしの部屋

対象：2～3歳

保護者の方も入れます

カレンダーの×印は休館日です。

開館は10時～18時。

金曜日は20時まで開館しています。

## 地下水

石海小学校の2年生が図書館見学に来た。96名を二つのグループに分け、ひとつは図書館の説明と質問の時間、別のグループはおはなしと絵本を聞き、後で交代という流れだ。私は説明と質問を担当。事前に息子(他校2年)に図書館見学に行ったらどんなことを知りたいかと聞いたところ、「どんな本があるかとか、どんな風に並んでるか」。

そこで、利用カードの説明の後、本の並び方を説明。「だってだってのおばあさん」(さのようこ作)は作者の名字の一字目をとって「えほんのサ」、「ふたりはともだち」(ローベル作)は「おはなしのロ」のところに並びますと話した。「じゃあ、この本『大どろぼうホッツェンプロッツ』(プロイスラー作)はプというシールが貼ってあるけど、なんでプだと思う?」「ホッツェンプロッツのプ!」お腹の中で大笑いしてしまった。

質問の中には、答えに困るものも。「本棚の重さはどのくらいですか?」「量ったことはないけどなあ」と言いつつ、本を五、六冊重ねて持ってもらい、本はかなり重いということ、本棚も重いけど本が並んだらとてつもなく重いから、地震がおきたら本棚から離れてね、と話が防災の方に流れ、自分でも何を答えているのやら。

「2年生におすすめの本は?」という質問に『ひとまねこざる』や『エルマーのぼうけん』を挙げたが、帰り際「これ、借りる」と『大どろぼうホッツェンプロッツ』を見せに来た男の子がいて、嬉しかった。

(池田)

